

平成17年度基礎・基本定着度調査の結果について

平成18年1月中旬に、県下一斉に小学校5年生、中学校1・2年生を対象にした「基礎・基本」定着度調査が実施されました。今回、市内の小中学校の結果がまとまりましたので、広く市民の皆様にお知らせし、今後の学力向上に一層努めていきたいと考えています。なお、各小中学校の結果については、各学校の学校便り等をとおして公表します。



●調査の目的

学習指導要領において身につけることが求められている基礎的・基本的な内容の定着について、県内すべての小・中学校等が確かなデータを基に自校の課題を明確にし、一人ひとりに応じたきめ細かな指導方法の改善・充実を図ることを目的として実施するものです。

●調査結果及びその分析

①各教科ごと正答率(%)

学年	教科	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	鹿屋市	78.2	72.2	72.5	76.0	
	肝属地区	78.0	72.6	72.0	76.0	
中1	鹿屋市	64.2	58.1	69.9	65.0	51.5
	肝属地区	63.4	57.4	69.9	64.4	51.6
中2	鹿屋市	69.2	62.2	65.7	65.8	51.2
	肝属地区	68.9	61.6	65.5	66.4	51.2

◇小学校5年生では7～8割程度の正答率を示し、概ね基礎基本は定着しているようです。
◇中学校1、2年生では、6～7割程度の正答率で、1年生の社会科と1、2年の英語科が6割に満たず、十分ではありません。

②各教科ごとに伸ばすべき学力等

教科	各教科で特に伸ばすべき学力等
国語	・文章を読んで、主題や内容を把握する力 ・目的や意図に応じて文章を整理して書く力
社会	・資料から情報を読み取り、活用する力 ・基礎的な社会科の用語の理解
数学	・文字式について目的に応じて計算したり、変形したりする力 ・図形の性質を論理的に推論し、説明する力 ・関数の関係を見だし、グラフ等で表現し、考察する力
理科	・実験結果を比較して考える科学的な思考力 ・観察、実験器具を正しく操作する技能
英語	・前後の文脈から適する文を書く力 ・単語等の語彙力、及び基本的な文型の理解

◇左表の内容について、重点的な指導や学力の定着を図るための工夫が必要であり、各学校で具体的な手だてを講じていきます。

●調査結果に対する手だて

- ・本年度中の取り組み＝1月の調査実施後、各学校では誤答傾向等の分析を行い、定着が不十分な点について、補充の授業や個別指導を行っています。
- ・来年度の学力向上＝各学校は、定着が不十分であった内容について、原因を分析し、来年度の年間指導計画や授業改善の具体策を立案します。
- ・家庭での学習習慣＝家庭学習は、学校で学んだことを定着させるために大切なものです。家庭学習の充実に向けて、学校と家庭・地域が一体となって取り組めるように、働きかけを行っています。

【問い合わせ】 市学校教育課 ☎0994-31-1137